



発行所  
横浜市中区大平町96  
光明山西有寺内  
横浜市仏教連合会  
電話 (045) 661-0166



●鶴見区仏教会

会長 佐々木 敬易

平成二十七・二十八年度の会長を仰せつかりました。通仏教的課題の研修と親睦を深め、各寺の運営・教化に資する会にして参りたく存じます。ご教導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。○会長 佐々木敬易(浄土宗専念寺)○副会長 傍島 晃良(天台宗光明寺)○事務局 庶務 白石 隆弘(浄土宗正行寺) 会計 横溝 常之(天台宗寶泉寺) 研修 原 隆英(理事兼任・真言宗智山派正楽寺) 広報 河村 隆哲(理事兼任・天台宗本覚寺) ○理事 生方 常明(天台宗天王院) 田中 隆範(真言宗智山派金剛寺) 山本 広昭(天台宗大聖寺) 古屋 道間(浄土宗安養寺) 石塚 慈康(天台宗眞福寺) 横井 隆彦(浄土宗泉寺) 会の主な事業としては、四月に「花まつり」・秋・冬に「税務講習会」・「忘年会」・「つるみ夢広場」への後援を行っており、他に七月末に行われる仏教婦人会主催の「盂蘭盆会灯籠供養」で法要を行っております。本年の「花まつり」は真宗大谷派智広寺様を会所に開催されました。会員寺院出仕の法要に続

いて御住職により法話がなされました。また今回は法要に先立ち「子ども花まつり」が企画され、朗読劇を行っている団体「えほんをよむ」が制作した「お釈迦様の誕生」などが披露されました。七月の盂蘭盆会灯籠供養では会員寺院出仕による祭壇での法要と、祭壇左右に並べられた灯籠前での読経が行われました。また、本年は、曹洞宗大本山總持寺様が二祖峨山韶碩禪師の六五〇回大遠忌で、十月二十日の大法要は地元仏教会長というところでご招待を頂戴しました。千畳敷と言われる大相堂を満堂にした法要には感銘を受けた次第です。以上、雑駁でしたが報告申し上げます。

●保土ヶ谷・旭区仏教会

会長 田島 海静

平成二十六・二十七年年度の会長として再任させて頂きました。当会は通仏的な法要を中心に行い、地域寺院の相互の連絡を密にし、時代即応の教化の充実をはかり、仏教本来の使命を達することを目指す。引き続き宜しくお願ひ致します。以下ご報告いたします。

十一月十九日、秋の仏跡参拝旅行は、甲斐善光寺さまと大善寺さまのお参りでした。十二月六日、成道会は安楽寺さまが会場となり、法要の後、テレビでも活躍の露の団姫師による仏教落語が披露されました。十二月十一日開催予定の歳末托鉢は天候不順で中止でした。二月九日、市仏涅槃

会の当番区となり天徳院さまが会場となりました。四月三日、花まつりは清来寺さまが会場となり、法要に引き続き開田蓮成師の法話がなされました。次回の旅行は、遊行寺・鎌倉方面。成道会の会場は長見寺さまを予定しております。

●港北区仏教会

会長 金子慈潤

今年度はお盆の頃の猛暑が終わったから、関東から東北地方にかけて台風17号、18号「線状降水帯」私は初めて聞く言葉で、ゆっくりと集中豪雨が移動。鬼怒川の堤防決壊、常総市などに大きな被害をもたらした、日本列島縦断だった。

港北仏教会の年間行事もパターン化しており、来期からは新役員のもとイメージが変わるかなと思う。ふりかえると4月4日「花祭り」会場は興禅寺本堂正面に花御堂として境内に三間四方の仮設舞台を作り、舞楽・詠歌舞踊を披露した。参拝客200人、東照寺の梅花流詠歌で仏教会僧侶入場、会長導師でお釈迦様の誕生を祝しての法要、参拝者の灌仏と續き、会長挨拶、恒例の港北区社会福祉協議会に「社会を明るくする運動」金一封贈呈。第二部 清興興禅寺支部、天台宗福聚教会の会員による釈迦が誕生した喜びの歌「釈迦誕生和讃詠歌」「花和讃」の2曲を奉詠。次に興禅寺雅楽会による舞楽

会長就任のご挨拶

横浜市仏教連合会 会長 山本信行



平成二十七年度から横浜市仏教連合会の会長をお預かりした山本信行(高野山真言宗 都筑区 長王寺)でございます。

前期の一部の方を除いて新しい顔ぶれで出発いたしました。今期も前期同様、ご指導とご支援とを賜りますようお願い申し上げます。

市仏連には教化活動として釈尊奉讃会がありました。この会も会員さんが高齢化し、会員さんが減ってしまい、思うような活動ができなくなりました。そこで奉讃会を奉讃部として新設し、市仏連の傘下に入れることに決定しました。

つまり、釈尊奉讃会を発展的解消し、市仏連に組み入れました。平成二十六年十月「横浜市仏教連合会奉讃部発会式及び祝賀会」が横浜駅西口の勸行寺さんをお借りし盛大に開催されました。

それから一年余り時が過ぎ、平成二十七年秋の一日仏跡参拝旅行が行われました。今回は、「京浜各宗本山参拝とスカイツリーの旅」ということで「川崎大師 平間寺」・「池上本門寺」を参拝させて頂きました。約四十名の参加者を得て、天候にも恵まれました。普通の団体では見せて頂けない宝物や、すばらしい庭園等をじっくり鑑賞することができました。これが市仏連の仏跡参拝旅行の醍醐味だと思います。集合写真も撮って頂き、参加者一同大喜びでした。東京スカイツリーの方はやや雲がかかって、あまり見晴らしが良くなかったかも知れません。お土産に御朱印帳をおつけしました。因みに若い女性の間でこれが人気を呼んでいるそうです。後になりましたが、前述奉讃部の成立には前会長 玄野孝善師のお力によるところが大きかったです。

ところで近頃気になる言葉が目につきます。「散骨・直葬」は大分慣れましたが、「墓友・送骨・墓じまい・拡大自殺・レンタル墓・ドライブスルー葬



市仏連奉讃部発会式

「蘭陵王」中国、北斎(550)577)蘭陵王長恭は容姿の美しさが災いして戦場での兵士達の士気が上がらない、そこで仮面をつけ指揮をとったところ兵士達は鼓舞され大勝利をとったと解説されている。6月21日 研修会が興禅寺会館に於いて行政書士、阿部陽一先生を迎えて前回の績として講話を行った。

涅槃会担当区予定

平成29年 第41回 泉区  
平成30年 第42回 栄区  
平成31年 第43回 都筑区

総会議長担当区

平成28年 第43回 神奈川・西区  
平成29年 第44回 中・南・港南区  
平成30年 第45回 保土ヶ谷・旭・磯子区  
平成31年 第46回 金沢・港北区

県慰霊堂出仕当番表

平成28年6月6日(月) 磯子区  
平成28年10月5日(水) 港北区  
平成28年11月7日(月) 金沢区

事務日誌

27・2・9 涅槃会 保土ヶ谷旭 於天徳院  
27・3・1 慰霊堂奉仕通知  
27・4・6 慰霊堂奉緑・青葉区  
27・4・23~24 春の仏跡参拝 京都方面

執行役員名簿

会長 山本信行  
副会長 兼 奉讃部部长 横山正彦  
副会長 兼 時局対策委員長  
専務理事 佐藤功岳  
専務理事 西村健伸  
専務理事 柴義彰  
専務理事 志村尚雄  
専務理事 中村重和  
専務理事 守長秀文  
専務理事 大沼行正  
専務理事 西山聡達  
専務理事 亀野哲也  
専務理事 橋下賢明  
専務理事 河本同文

区仏会長名簿

鶴見区 専念寺 佐々木敬易  
神奈川区 本覺寺 守長尚文  
西区 光源寺 渡辺賢  
中区 大圓寺 佐藤功岳  
南・港南区 興禅寺 市川智彬  
保土ヶ谷区 大蓮寺 田島海静  
磯子区 妙法寺 松本慈恵  
金沢区 傳心寺 大澤憲明  
港北区 興禅寺 金子慈潤  
都筑区 福聚院 齊藤清紀  
緑・青葉区 東福寺 高橋英雄  
戸塚区 高松寺 西尾宗哲  
瀬谷区 西福寺 備前恭忍  
泉区 西林寺 大橋俊史  
栄区 長光寺 菅原紹雄

編集後記

本年度総会で、備前・関水の二人が会報担当理事を退職させて頂きました。備前は平成二年、関水は平成七年に任命され、どうにか当会の活動記録を発行、発信してまいりました。ひとえに関係諸大徳の絶大なご協力と絶大な配慮の賜物と厚く感謝しお礼申し上げます。後進のスタッフにも我々以上のご支援の程をお願い致します。永い問本当にありがとうございます。今号より新体制での編集となりました。ご愛読、ご指導よろしくお願ひ致します。(哲)



涅槃図に描かれている猫

だが、清水が湧いたことから泉涌寺と改名された。境内の月輪陵は鎌倉時代に四條天皇の御陵として造営され、爾来皇室の御香華寺院として篤い信仰を集めている。戒律を基本に、天台、真言、禪、浄土の四宗兼学の寺として壮麗な堂宇を連ね、幽谷脱俗の仙境、清浄無垢の法域となっている。

楊貴妃観音像の美しさ、尊さは人の心を捉えて離さない。佛殿、舍利殿、靈明殿を拝観し、御座所庭園、海会堂など普段入ることが出来ない場所も案内していただいた。歴代天皇や皇族の方々の位牌を祀っている仏間の経机には四宗の経典が置かれ、勤行されているようだ。最後は東山区の臨濟宗東福寺を参拝した。摂政関白藤原家が奈良の東大寺と興福寺から文字を取り、九條家の菩提寺として都最大の大伽藍を建立。五山文化の一翼を担う禅林古刹である。

境内全域が国宝に指定され、本坊八相の庭、名勝通天橋、新緑の紅葉や苔が美しかった。開山は聖一國師円爾弁円禪師である。本堂は

重層入母屋造り、天井の蒼龍図は堂本印象作。

春の涅槃会には室町時代初期の明兆作の大涅槃図が公開される。ここには猫が描かれているのが特徴。重文の東司には室町前期遺構もある。創建七百五十年、開山聖一國師の語録によれば「一時坐禅すれば、一日の仏なり。一日坐禅すれば、一日の仏なり。一生坐禅すれば、一生の仏なり」

一泊二日の行程を終え、京都駅で御土産の買い物をすませ、のぞみで新横浜への帰路についた。

参拝した寺院それぞれに市仏連諸師が事前に準備をし、話を通していただいたお蔭で懇ろな接待、ご案内をいただいた。大変ありがたく、感謝申し上げます。



横浜市仏教連合会 春の京都仏跡参拝記念 於 仁和寺 平成27年4月23日



横浜市仏教連合会企画 秋の仏跡参拝日帰りの旅が関東厄除け三大師の一つ川崎大師平間寺様、日蓮聖人ご入滅の地池上本門寺様の参拝、東京スカイツリー見学の日程で十月二十三日に行われた。総勢約四十名の一行は貸切バスで定刻午前八時に天理ビル前を出発し川崎大師平間寺様を参拝した。川崎大師 平間寺様では、特別に大本堂の内陣にて大勢の僧侶の護摩祈禱を間近で祈願して頂いた。

その後、信徒会館でお茶の接待を頂きお話を伺い大本堂前で集合写真を撮りバス出発時間まで境内を散策した。大本堂前の経蔵には中国最後の木版大蔵経「乾隆版大蔵経」七二四〇巻が収蔵されてお

### 秋の仏跡参拝旅行

#### 京浜各宗本山参拝と東京スカイツリーの旅



り御本尊・説法釈迦如来の前に置かれた金色の大きな五鈷杵が安置されていてその大きさに参拝者一同目を見張っていた。

また、境内では川崎大師菊花展が開催されており秋晴れ会員が一年間大事に育て上げた盆養花、小菊懸崖、盆栽、福助作り、ダルマ作り等が境内特設花壇において披露されていた。

池上本門寺様では、大堂内陣で法薬一座を頂戴し縁起をお話頂いた。その後、お茶の接待を頂き大堂前で集合写真を撮りバスに乗り込んで朗峰会館まで移動。普段は公開していない小堀遠州によって造園された四千坪の池泉回遊式庭園の松濤園を訪ねた。

松濤園には、西郷隆盛と勝海舟との江戸城無血開城の会見が行われた記念碑、隆盛の弟西郷従道が揮毫した両雄会見碑や、橋本雅邦先生筆塚などがあり参加者各々見学、散策をした。



横浜市仏教連合会 秋の仏跡参拝記念 於 川崎大師・平間寺 平成27年10月23日

昼食後に東京スカイツリーを見学、地上三五〇mの「東京スカイツリー天望デッキ」まで団体で昇った。あいにく曇りの天気だったが遠方まで視界が有り景色を楽しむことができた。

その後自由行動になり地上四五〇mの「東京スカイツリー天望回廊」に行ったり東京ソラマチで各々買い物を楽しんだ。

帰路の車中で、記念品として新たに制作された横浜市仏教連合会特製の「御朱印帳」に川崎大師と池上本門寺の御朱印が記帳され旅行参加者全員に配られた。

今回の参拝旅行では、川崎大師平間寺様、池上本門寺様には手厚い歓待をして頂き、仏縁を深め信仰心の増進がなされた参拝旅行となった。

## 第四十回涅槃会開催

### 於 天徳院 保土ヶ谷・旭区仏教会担当

第四十回当会主催の涅槃会が平成二十七年二月九日(月)保土ヶ谷・旭区仏教会担当で、曹洞宗天徳院様を会場として開催された。

当日は、保土ヶ谷・旭区仏教会の諸師を中心に、午後二時半より市仏連山本信行副会長の開式の辞により涅槃会法要が始まる。導師を勤められた市仏連玄野孝善会長から啓白文が奉読され、読経の声が厳かに堂内に響いた。指名焼香では、県仏教会本間孝康顧問、和岡大雅会長、当会都筑哲信顧問、川上敬吾顧問、天徳院総代諸氏が仏前に進まれた。



第二部では、市仏連玄野会長、横山副会長の挨拶に続き、本谷康次氏による味の素株式会社での経験をもとにした「現代を生きる 意味をさぐる」を講演いただいた。

### 講演録 「現代を生きる 意味をさぐる」 本谷康次氏

はじめに  
これまで学校とか企業では講演を行ってきたことはありますが、今日は「現代を生きる意味を

さぐる」という、大きなテーマです。私たちが通らなければならぬ道筋をこれまでの経験をもとにお話させていただきます。

私は、石川県金沢に生まれました。加賀百万石の城下町であり、日本で一番素晴らしい街だと考えています。

金沢はお寺が多く、ただ多いだけでなく、浅野川と犀川を結んで防火用水が造られました。兼六公園は城の防火用水槽として造られたものです。火災を防ぐためのお寺と地域、街、家族が一体となった街づくりが百五十年の間続き、火事の発生は激減しました。

私が子供の頃、お寺に月に五回ほど行き、多くのことを学び

ました。それが「お寺発祥の約束事」です。

①うそをつかない②人のいやがることをしない③礼儀正しく、神社仏閣の前で必ず黙礼をする④物を大事にする⑤故郷を愛する

というものです。金沢は戦禍からも守られたため、豊かな自然、深い歴史や文化に惹かれて多くの作家が住むという文化的にも豊かな街です。

私は小学校を金沢で過ごし、東京の学校を卒業すると、食品会社に就職しました。

当時、日本は戦争に負けた後、だったので企業は採用システムというものが確立されはじめてきた時代、その中で、私は求人教育を担当していました。

人との会話なので、人との会話の中で、優秀な人材をどのように活かしたら良いのかということも社長職の中で経験しました。

食品会社として医薬品もつくっているが、寿命が八〇歳まで伸びる時代になり、その背景には食べ物、冷暖房が完備された生活等があると思います。

現代は不登校、ひきこもり、殺人、自殺、ネットによる中傷、ニート、暴力、いじめ……私たちが考えている以上に世の中が悪のデパート化していると感じます。なぜでしょうか。

私はニートで引き籠もりというのは贅沢病の一種ではないかと思っています。

内引き籠もって出てこない、これは甘やかしにすぎないのではないかと、また、その原因を大人が作ってしまったらどう思うのです。子供の要求を何でもかなえることが子供の幸せに繋がっているのではないかと考えています。

戦後日本は高度経済成長によって、欧米に肩をならべるようになりました。その高度経済成長は、食うものも食わず、がむしゃらに頑張る作り上げました。

しかし、今の若い世代には、それが全て打ち消されてしまったのです。もう少し我慢しなさい、努力しなさい、そういうことが無くなってしまいました。

さらに、日本に大切な一人ひとり、人材育成の教育として、かつては修身があったが、現代にはありません。すなわち、戦後、日本人の美德であった、礼儀、努力、忍耐、我慢、辛坊、規律遵守といったものが失われ、子供の欲望を叶えることが子供の幸せと勘違いしてしまっているのです。

もう一つはグローバル化です。高学歴高収入絶対主義というべきもので、子どもたちは学校が終わると、ほとんど塾へ行っています。しかし、一流大学で一流企業に入ったとしても少なからず数年でやめてしまいます。

一流のところに入るだけで

が目的。勉強も記憶するだけの教育では、人間がおかしくなってしまう。

グローバル化、国際競争の激化によって個人利益誘導型の社会になってしまっているのです。

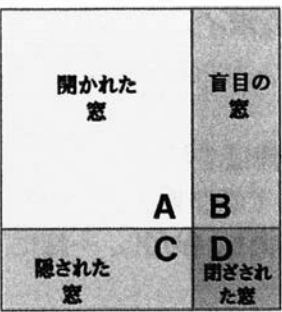
### 人という文字が示す 3つの役割

人は自分一人で成長してきたものではありません。人は三つの役割があります。

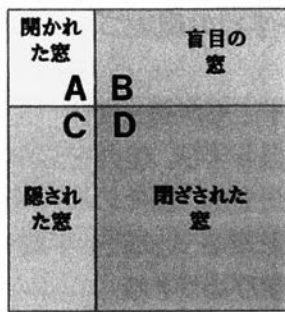
①子供、高齢者、要支援者等支えが必要な人②ボランティア地域活動 社会人等

③ニートや引きこもりのような、それを見ている人、これが私たちです。

育った子供は支える人に変わっていきます。人間の成長サイクルとして多くの人に支えら



【理想の形】



【交流前の形】

ジョバニの窓という、対人関係構築の心の四つの窓をご紹介します。(左図)

①開かれた窓(自分にも他人にも分らない) ②盲目の窓(自分では分らないが他人には分かる) ③隠された窓(自分にはわかっていないが他人には分らない) ④閉ざされた窓(自分にも他人にも分らない)

ジョバニの窓、人間関係の基本

対人関係の段階によって、窓の大きさが変化していくので、自分と他人がどのような関係で有るかを考えると良いでしょう。

家族はどうあるべきか、今では家族間であっても閉ざされた窓が大きい状態にあるのではないかと。なぜそのような状態になっているかを考えてみる必要があるでしょう。

今日は、この人という文字、とジョバニの窓についてよく覚えていただければと思います。

二十世紀時代の  
変革について

最大のポイントは「グローバルゼーション」だと考えます。

①労働市場の変貌 ②生産労働従事人口の激減 ③格差・リスク社会へ移行、貧困・社会格差の拡大

これまでは、日本は海外との関係において関税により日本の製品を保護してきました。それが、その垣根がなくなっ

てしまいました。それにより生産拠点が東南アジアなどに流れていってしまいました。

労働市場が変革することにより学校を卒業しても就職できる割合が減少してしまいました。

例えば味の素は、日本では生産していません。海外で生産して日本で製品化しています。

このように社会は変革してきているのであり、これからは英語とコミュニケーション能力、



対人関係の段階によって、窓の大きさが変化していくので、自分と他人がどのような関係で有るかを考えると良いでしょう。

家族はどうあるべきか、今では家族間であっても閉ざされた窓が大きい状態にあるのではないかと。なぜそのような状態になっているかを考えてみる必要があるでしょう。

今日は、この人という文字、とジョバニの窓についてよく覚えていただければと思います。

そして主体性が、求められていくことでしょう。

今後社会の期待する人間はどのようなのかをまとめると、次のようなものになります。

①コミュニケーション能力(英語を基本で意思、思想、業務伝達できる能力) ②主体性(独自発意思能力で積極的行動) ③協調性 ④チャレンジ精神 ⑤誠実性

以下、専門性、柔軟性等が挙げられます。

これまでのように、出身校、学業成績、保有資格採用資格などが重視されなくなっており、その傾向は進んでいくと思われ

ます。

自分がなをしたいのか、何を主張したいのか、そしてキャリアクターが求めているのか、その傾向を知っておかないとグローバル化に対応できません。

まとめ

総括として、現代はものが豊富です。あと数年でオリンピックもあります。その中で私たち一人ひとりがどうしたら豊かになるのかというのを考えていく必要があります。

あまりにも恵まれすぎる環境の中で、手を合わせて合掌するという意味を良く考えることも大切です。

私は、今でも朝起きると仏様に水を上げ、お経を上げないと一日が始まりません。講演で地方で話すときには、何か自分で信じるものを持ちなさいと言っています。それを貫けば必ずついてくるものがあります。

何不自由ない現代において、それが不自由になることも必要だと考えています。そこから生まれるものが必ずあるのです。

私は、家内を無くし、一人暮らしになってから自宅を寺子屋のようにしてみました。

学校に行くのが嫌、就職するのが嫌な子どもたちを預かりました。その子はお腹すくからコンビニに行こう、いや、せっかくだから自炊しよう、ということと、男二人で自炊してみました。2週間するとその子は少しづつ変わってきた。そのうちに学校に行くようになったのです。

ある日その子を太宰府の心字池の、過去(太鼓橋)・現在(平橋)・未来(太鼓橋)の三

閉会

山本信行副会長

現在の社会で欠如したものは何かという示唆に富む話をいただき、感謝いたします。

本堂の右側には涅槃図も掲げてありますので、ぜひお参りしていただき、ごさいました。

第三十回春の仏跡参拝旅行

春の京都仏跡参拝

平成二十七年四月  
二十三日・二十四日 京都方面

横浜市仏教連合会主催の仏跡参拝旅行が、平成二十七年四月二十三日、二十四日に実施された。二日間とも晴天に恵まれ、京都市の六か寺を普段参拝できない場所まで拝観させていただき、楽しく有り難い信心の増す功德萬福の旅だった。



新横浜に集合、ひかり号に乗りして十時過ぎに京都駅に到着。観光バスで東山の臨濟宗建仁寺を参拝。京都最古の寺で、建仁二年將軍源頼家が寺域を寄進し、榮西禪師を開山として宋の百丈山を模して建立された。山号を東山と称す。開山当初は天台・密教・禪の三宗兼学だったが、第十一世蘭溪道隆の時から臨濟宗として八百年の歴史を有す。国宝級の建物や風神雷神図屏風の絵画、○△□の庭や禅室各種を雲水さんが丁寧に案内して下さった。

法堂の周りは牡丹の株の植え込みで満開の色彩と芳香が明和二年上棟の禪宗様式の仏殿に満ちていた。

本尊釈迦三尊を拝し、その天井の小泉淳作画伯筆の双龍を仰ぎ見、その後本坊でお茶の接待を戴

いた。日本に禅をもたらした、茶を広めた栄西禪師が説いた『天哉心乎』(天いなるかな、心や人の心は本来自由でおおらかなである)という、ここにいるだけで心静かに自らと向き合える禅寺でゆっくりと時を過ごした。

右京区の真言宗仁和寺では御室会館で京料理の昼食を味わった。玄野会長が三期六年を務めた会長職最後の参拝旅行に三十名もの参加をいただいたことへの感謝と有意義な旅行に期待したいと挨拶された。九万平米の境内の五重塔や阿弥陀三尊を祀る金堂内にお詣りさせていただき般若心経を誦経し

た。

光孝天皇が仁和二年勅願寺とし

て造営をはじめられ、崩御後に事業を引継いだ宇多天皇により仁和四年に完成した。宇多天皇は醍醐天皇に譲位後、出家して寛平法皇と称し、仁和寺に御室御所を設け政務を取った。その後、皇室出身者が代々住職を務め、我が国初の門跡寺院として発展したが、室町時代の兵火により再興され、徳川三代將軍家光により再興され、御所の建替と合わせて金堂や御影堂が移築された。

中門の左側に遅咲きの桜「御室桜」苑地が広がる。残念ながら葉桜であったが、根元から枝を分けた低い木に花を咲かせ、見上げる桜ではなくほほに触れる「わたしやおたふく、おむろのさくら、はなが低くても人が好く」という「おたふく桜」の別名がある。

本坊の宸殿の黒書院、白書院のたたずまいと襖絵や庭園を眺め楽しんで。

次に右京区の真言宗嵯峨山大覚寺を参拝した。管長祝下のお出迎えをいただき、貞観十八年、恒寂入道親王が嵯峨天皇の離宮に創建した門跡寺院で、嵯峨御所とも呼ばれる。

弘法大師空海の勧めにより嵯峨天皇が浄書された般若心経が勅封として奉安され、写経の根本道場としても知られる。

「弘仁九年、天下に悪病が流行したので、嵯峨天皇は紺紙金泥で心経を写経され、弘法大師が祈念をこめ、幸い悪病を終わらせたという。般若心経は人間存在を愛しむ



その後鐘楼へ案内され、口径一八米、重さ七〇トンのもので、案内の役僧が皆さんで持ち上げてくださり、と云われたので持ち上げようと手を伸ばしたら大鐘もちになられたと冗談を飛ばし、一同大笑いした。除夜の鐘では撞木につながれた子綱を十六人の僧侶が引き、親綱を持った僧侶が仰向けになって鐘を撞く。大学時代に浄土宗の友人にその様子を聞いて吃驚したものである。本堂では全国から集まった百名以上の僧侶により御忌の大法要が行われていたので、一同参列の功德にあずかった。

昼食の後、東山区真言宗泉涌寺を参拝した。空海が創建した法輪寺が始まりの古刹である。参道を上り詰めた大門から眺めると佛殿は見下ろした位置にあり、幅広い砂利道を下り佛殿に向かう。

創建当初は仙遊寺と呼ばれていた。

眼によつてきわまりない空的实际を把握した明るい哲学である。祈りである。(随筆。花の寺・岡部伊都子著「大覚寺」より)。

境内全域が国の史跡、中国唐代の洞庭湖を模した大沢池は中秋の名月に船を浮かべる観月の夕べで有名である。

夕食は本家鳥初でしゃぶしゃぶ料理に舌鼓を打ち懇親を深めた。

翌日は東山区の浄土宗知恩院を参拝した。正式名称は華頂山智恩教院大谷寺で、全国に六千九百の寺院と六百万人の信者を擁し、広大な自域に国宝・重文級の伽藍が並んでおり威風堂々という形容が似つかわしい。

建暦元年に法然上人が居を構え、念仏の教えを説いた聖地である。三門の先には男坂の石段が続く。御影堂は平成の工事中で全員ヘルメットを被り屋根裏から工事



<p>横浜市仏教連合会会計 臨濟宗円覚寺派海蔵院住職</p> <p><b>中 村 重 和</b></p> <p>〒244-0003 戸塚区戸塚町四二一三 電話 八六一―四四一一</p>	<p>横浜市仏教連合会常務理事 宗区仏教会長 浄土真宗本願寺派長光寺住職</p> <p><b>菅 原 紹 雄</b></p> <p>〒247-0007 宗区小菅ヶ谷四一―二七 電話 八九一―四五七六</p>	<p>横浜市仏教連合会常務理事 泉区仏教会長 浄土宗西林寺住職</p> <p><b>大 橋 俊 史</b></p> <p>〒245-0003 泉区岡津町一四三二 電話 八一―四三〇五</p>	<p>横浜市仏教連合会常務理事 瀬谷区仏教会長 真言宗豊山派西福寺住職</p> <p><b>備 前 恭 忍</b></p> <p>〒246-0037 瀬谷区橋戸三―二一―二 電話 三〇一―六一三四</p>
<p>横浜市仏教連合会会報・広報担当理事 曹洞宗昌昌院住職</p> <p><b>亀 野 哲 也</b></p> <p>〒233-0012 港南区上永谷五―一―三 電話 八四三―八八五二</p>	<p>横浜市仏教連合会会報・広報担当理事 法華宗陣門流勸行寺副住職</p> <p><b>西 山 聡 達</b></p> <p>〒220-0002 西区南軽井沢九 電話 三一―三五五七</p>	<p>横浜市仏教連合会会報・広報担当理事 高野山真言宗最勝寺住職</p> <p><b>大 沼 行 正</b></p> <p>〒221-0833 神奈川区高島台一―二 電話 三二二―〇一九一</p>	<p>横浜市仏教連合会会計 曹洞宗本覺寺副住職</p> <p><b>守 長 秀 文</b></p>
<p>横浜市仏教連合会顧問弁護士</p> <p><b>遠 藤 隆 也</b></p> <p>〒221-0022 (自宅) 神奈川区白幡上町一八―三 電話 四三二―六一九二 〒110-0015 (事務所) 台東区東上野二―一八―七 電話 〇三―八三二―二八一九</p>	<p>横浜市仏教連合会専務理事 曹洞宗隨流院副住職</p> <p><b>西 村 健 伸</b></p> <p>〒240-0045 保土ヶ谷区川島町五〇―一 電話 三七一―三五七四</p>	<p>横浜市仏教連合会専務理事補佐 曹洞宗東光寺副住職</p> <p><b>志 村 尚 雄</b></p> <p>〒240-0042 保土ヶ谷区上星川二―三四―一 電話 三八一―〇八〇〇</p>	<p>横浜市仏教連合会専務理事補佐 高野山真言宗遍照寺住職</p> <p><b>柴 義 彰</b></p> <p>〒240-0012 保土ヶ谷区月見台三八―三一 電話 三三一―〇一五六</p>

### 横山敏明老師を 偲んで

横浜市仏教連合会  
前会長 玄野孝善

横山敏明老師がご遷化されて早くも一周忌を迎え、去る十月五日にお逮夜、六日に本葬が営まれました。

大本山總持寺貫首の江川禪師猊下をはじめ、大本山永平寺、大雄山最乗寺、北海道の中央寺など全国の有名寺院からご導師をお招きし、更に神奈川県仏教会会長、横浜市仏教連合会役員など、三―五名からの僧侶が西有寺の本堂に結集し、おごそかに本葬が営まれました。

それからしても横山敏明老師は偉大な僧侶であったことが伺えます。

私は昭和五十年ころから、保土ヶ谷・旭区仏教会のお仕事のお手伝いをしておりまして、ころ、保土ヶ谷区の森山正城老師から、横浜市の仏教会を見聞するともっと仏教会の理解ができるからは非行ってごらんないとい進められ、昭和五十三年の三月に顔を出したところ、当時の会長、金竜院方丈さまをはじめ、東光禪寺さま、西有寺方丈さまなどにより市仏連に関わることになりました。



れ、敏明老師がそれなら専務理事が良いと、いきなり資料を渡されてしまいました。

さつと見たところ難題ばかり、とてもできません。と言うと、敏明老師は僕がついていからカバン持ち程度でいいんだよ、と言う。それくらいなら引き受けたところ二ヶ月ほどしたら、「僕今度宗議会議員になったので、ユーに全てを任せるところから頼んだよ」と言っていて、その場を立ち去ってしまいました。

さあ大変、西も東もわからない私、顔も名前もわからない老僧から専務理事これを頼むあれを頼むといわれ、えらいことになってしまいました。

また専務理事は、会議の司会、お茶の接待、議事の記録、通信事務、会報の編集など、次から次へ仕事かわいて出てきま。それに仏跡参拝旅行の企画とその開催、忘年会の会場準備と盛りだくさんです。困ってしまつたとき敏明老師に相談すると、ユーにまかせせるから上手にやればいいんだといつもその返

事でした。

考えてみれば、敏明老師は、宗門の総務部長、財務部長、神奈川県宗教連盟の役、神奈川県仏教会長、横浜市仏教連合会会長、そして大本山總持寺の監院その他数えきれない諸役、それも重責のお役を担われ、市仏の専務理事の面倒など到底見るどころではなかったでしょう。

でもユーにまかせせるからと言われたので出来るだけ努力をしましたが、一人では限界があります。

そこで広報に瀬谷の西福寺さん、泉区の東泉寺さん、専務理事の補佐に保土ヶ谷区の見光寺さん、会計補佐に瀬谷区の妙光寺さんなど、頭を下げ回ってお手伝いをしていただきました。そして、平成二十二年六月五



### 第四十二回

## 総会開催

第四十二回総会が平成二十七年五月二十二日(金)西有寺様を会場として開催された。

山本信行副会長による開会の言葉、玄野会長挨拶の後、議長担当区鶴見区・戸塚区仏教会より佐々木敬易師が議長となり、各号議案が提起、審議された。前年度事業報告では林田眞成師により、決算報告は秋山智謙師により報告が為され、また、時局対策委員会報告が佐藤功岳師より為された。河本阿文師に

よる監査報告の後、報告事項が承認された。引き続き、当該年度事業計画(案)、予算(案)が提起され、了承された。

奉讃部が昨年度発足し、市仏連の最大目的である僧俗一体の活動として年に2回参拝旅行を企画している。この旅行へ参加できない場合、当該の区に協力負担金の通達が行われた。

これに対し、旅行会社へのキャンセル費用が発生するようであれば、その事を見込んだ予算とした方が良いのでは、また、事業計画が未遂であっても良いのではなどの意見があった。今後、大きな変更を伴うようであれば常務理事会を開催し審議頂くこととした。

次期会長並びに役員改選では選考委員を代表して市川智彬師より報告があり、新会長に山本信行師を選考提案され、全会一致で承認された。副会長として横山正彦師は再任。山本師の後任の副会長は再度選考委員で検討頂き常務理事会にて審議頂く事となる。その他担当理事の選考は新会長に一任された。

議事終了後、新役員、各区仏会長に委嘱状が手渡された。長年役員としてご尽力頂いた玄野孝善前会長、林田眞成前専務理事、秋山智謙前会計、備前恭忍前会報担当理事、関水俊道前会報担当理事には感謝状と共に記念品が贈呈された。

引き続き西有寺客殿に於いて懇親を深めて散会した。

世生  
由門信行

横浜市仏教連合会顧問  
法華宗陣門流勸行寺住職

都 築 哲 信

〒220-0002 西区南軽井沢九  
電話 三一〇—三五五七

横浜市仏教連合会顧問  
曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241-0822 旭区さちが丘五九  
電話 三九一—一三七九

横浜市仏教連合会会長  
高野山真言宗長王寺住職

山 本 信 行

〒224-0053 都筑区池辺町二八二七  
電話 九四一—一三六七

横浜市仏教連合会副会長  
奉讃部部长  
曹洞宗萬徳寺住職

横 山 正 彦

〒220-0031 西区宮崎町三二  
電話 二四二—四三三三

横浜市仏教連合会副会長  
時局対策委員長・中区仏教会長  
日蓮宗大圓寺住職

佐 藤 功 岳

〒231-0859 中区大平町九九  
電話 六四一—四九三三

横浜市仏教連合会監事  
高野山真言宗萬藏寺住職

河 本 岡 文

〒226-0012 緑区上山二一五—二  
電話 九三一—一五七三

横浜市仏教連合会常務理事  
鶴見区仏教会長  
浄土宗専念寺住職

佐 々 木 敬 易

〒230-0022 鶴見区市場東中町三一—八  
電話 五〇一—八〇六四

横浜市仏教連合会常務理事  
神奈川区仏教会長  
曹洞宗本覺寺住職

守 長 尚 文

〒221-0833 神奈川区高島台一—二  
電話 三二二—〇一九一

横浜市仏教連合会常務理事  
南・港南区仏教会長  
曹洞宗興禪寺住職

市 川 智 彬

〒232-0007 南区清水ヶ丘二二五  
電話 二三一—七五九〇

横浜市仏教連合会常務理事  
緑・青葉区仏教会長  
真言宗豊山派東福寺住職

高 橋 英 雄

〒225-0024 青葉区市ケ尾五二七—二  
電話 九七一—三六〇六

横浜市仏教連合会常務理事  
戸塚区仏教会長  
臨濟宗円覚寺派高松寺住職

西 尾 宗 哲

〒244-0003 戸塚区戸塚町四八四六  
電話 八六一—三五二七

平成26年度事業報告書

横浜市仏教連合会

イ 七福行事

- 1 定例総会(第41回)の開催… 平成26年5月9日 西行寺にて
- 2 役員会の開催… 16回 4月28日、6月13日、6月17日、6月26日、7月25日、8月29日、9月6日、9月26日、9月28日、10月1日、10月8日、10月17日、10月26日、11月5日、11月23日、3月8日
- 3 常務理事会の開催… 2回 5月9日、12月19日
- 4 理事会の開催… 2回 5月9日、12月19日
- 5 本議会解散式並びに奉還御免式 10月29日(水) 於：勸行寺講堂にて
- 6 会計監査の実施… 1回 平成27年4月18日
- 7 評議会の開催… 1回 平成27年9月9日 大徳院にて(保土ヶ野・地区担当)
- 8 記念講演の開催… 1回 平成27年9月9日 大徳院にて 講師 本谷孝次氏 / 講師 現代を生かす歴史家である 人々が何を信じて生きているか
- 9 市仏連会報の発行… 1回(第75号)
- 10 市仏連報の発行… (役員会・評議会・総会・記者会の案内等)
- 11 各支部活動に助成協力… 花まつり行事、成道会行事、評議会行事
- 12 県仏教会との相互連絡
- 13 祝電・中電の打電 5回 平成27年11月17日(祝日)、平成27年11月18日(祝日)、平成27年11月19日(祝日)

ロ 参加行事

- 1 横浜山教尊奉講会行事に参加協力
  - 2 県仏教活動に参加協力
  - 3 会員は修行寺に参加協力
  - 4 県仏教連盟活動に参加協力
  - 5 県仏教連盟茶会活動の実施
- 平成26年 6月5日(木) 稲谷区 稲谷区  
平成26年 11月5日(木) 稲谷区

平成27年度事業計画 (案)

横浜市仏教連合会

イ 七福行事

- 1 定例総会の開催… 1回
- 2 役員会の開催… 6回
- 3 理事会の開催… 2回
- 4 会計監査の実施… 1回
- 5 評議会の開催… 1回 瀬谷区 仏教会担当 (平成28年、瀬谷区)
- 6 市仏連会報の発行… 1回
- 7 市仏連報の発行… 12回(役員会・評議会・総会・記者会の案内等)
- 8 各支部活動に助成協力… 花まつり行事、成道会行事、評議会行事
- 9 県仏教会との相互連絡
- 10 祝電・中電の打電
- 11 春・秋の仏教参拝旅行の実施

ロ 参加行事

- 1 県仏教会活動に参加協力
  - 2 県仏教活動に参加協力
  - 3 会員は修行寺に参加協力
  - 4 県仏教連盟活動に参加協力
  - 5 県仏教連盟茶会活動の実施
- 平成27年 4月6日(月) 緑・青葉区  
平成27年 6月5日(金) 緑・青葉区  
平成27年 10月5日(日) 神奈川区  
平成27年 11月5日(木) 西

